

研究機関：広島大学

研究課題名 児童・生徒および保護者を対象とした
学校における生活習慣病予防のあり方の検討

研究書江老夕 広島大学大学院医歯薬科学研究科地域・学校看護学

教授 川崎裕美

研究期間 2016年10月12日（倫理委員会承認後）～2027年3月31日

対象者

平成26年度から平成28年度に安芸高田市が小児生活習慣病予防事業として実施した血液検査を受けた児童およびアンケート調査に回答した児童・保護者のうち平成29年から平成31年に同様の調査および血液検査を受けた生徒と保護者。

意義・目的

健康診断（以下、健診）は児童生徒が自身の体の成長や健康について認識を深める機会となり、児童生徒の生涯にわたる健康の保持増進のために必要な教育活動です。生活習慣病予防における児童生徒を対象とする血液検査の意義と保護者も含めた健康教育の課題と解決方法を検討することは地域の健康法事増進のために重要です。そこで、小児および地域での生活習慣病予防における児童生徒を対象とする血液検査の意義と保護者も含めた保健指導の課題と解決方法を検討するために、児童生徒・保護者の生活習慣と考え方の実態および児童生徒の血液検査結果の関連性と経年変化を明らかにすることを目的とした研究を行います。

方法

平成26年度から平成28年度に安芸高田市立小学校13校で実施された生活習慣に関する児童とその保護者のアンケート調査、および児童の血液検査から得られたデータ、および平成29年から31年に中学校6校で実施された同様の調査・血液検査から得られたデータを匿名化していただき提供を受け、実態や、健診前後での知識の変化を分析します（個人が特定出来る情報は使用しません。）

共同研究機関

安芸高田市福祉保健部健康長寿課

広島大学に情報を集め解析します。

個人情報の保護について